

# PFI事業における事後評価等マニュアルの概要

資料4-1①

「PFI事業における事後評価等マニュアル」は、期間満了となるPFI事業の検証のみならず、次期事業の検討に活かすほか、今後実施を検討する類似のPFI事業の事業内容の改善への活用を促すものである。

## 【マニュアルの構成と主なポイント】

はじめに

1. 事後評価等の目的

2. 事後評価等に向けた情報整理

3. 事後評価の実施

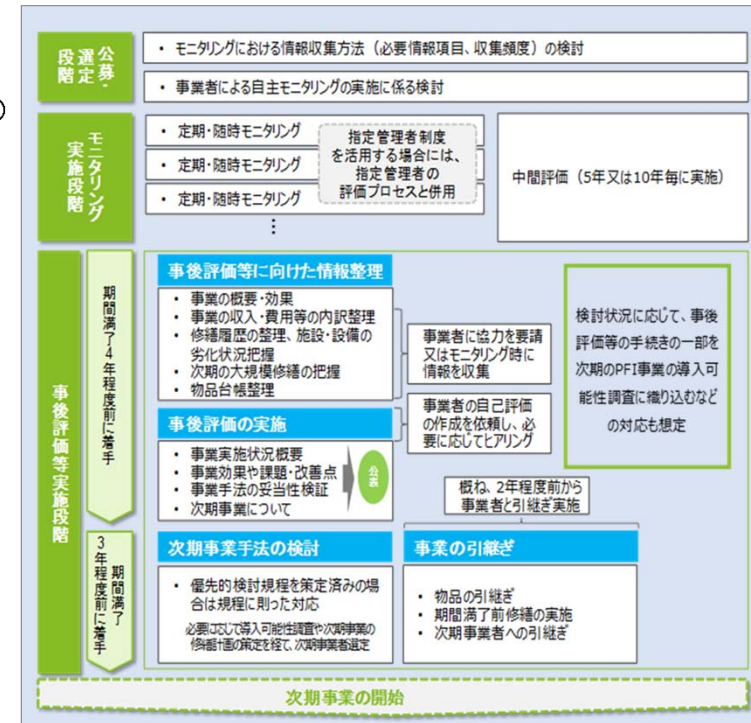
4. 次期事業手法の検討

5. 事業の引継ぎ

別紙

- 事後評価等の実施フロー図を掲載（右図参照）
- 次期事業をPFI手法も視野に入れる場合は、期間満了の4年程度前からの着手を想定
- 事後評価等の手続きを見据えた各段階での事前準備を記載
- PFI事業の概要・効果に係る標準的な項目を掲載
- ヒアリングを踏まえ、特に必要とされている内容を明記
- 情報整理の段階において、大規模修繕の把握の必要性を明記
- モニタリング情報等の活用により効率的かつ簡便に情報整理を行うことを明記
- 事業効果や課題・改善点を総括し、次期事業導入検討の参考となる標準的な評価項目を記載
- 事後評価結果の公表や、外部有識者等の意見収取による事後評価の公平性担保を記載
- 次期事業手法として基本的にはPFI事業手法を含めた検討を行うこととし、検討の判断基準を記載
- 次期もPFI事業を採用した先行事例を提示
- 各引継ぎ作業に取りかかる時期の目安を記載
- 修繕履歴の蓄積・データ管理等の方法をあらかじめ整理しておく必要性を明記
- 事後評価様式の例を紹介（記載の仕方、方針について様式内で整理）
- 事後評価等を実施した管理者等の先行事例を紹介

## ＜事後評価等の実施手続きの個別フロー図＞



## ＜次期事業をPFI事業へ移行した事例＞

事業名	当初事業	次期事業
多摩地域ユース・プラザ(仮称)整備等事業	RO方式	O方式
岡山市当新田環境センター余熱利用施設の整備・運営事業	BOT方式	RO方式
府中市市民会館・中央図書館複合施設整備事業	BTO方式	RO方式